

《2016 年度 活動記録》

【活動概要】

2016 年

- 7 月 16 日(土) 2016 年度 第 1 回研究会 (文化学園大学 新都心キャンパスにて)
- 講演:
・見崎大悟(工学院大学工学部機械システム工学科・ヒューマンインターフェース研究室)
「スタンフォード大学におけるデザイン思考と人間中心設計の教育・研究について」
- 8 月 3 日(水) 公開講座「美人の特徴:人間工学に基づくお化粧法」(文化服装学院メイキャップ実習室にて)
- 講義:
・梶谷哲也(文化学園大学)
「美人の特徴-人間工学に基づくお化粧法-」
- 実習:
・夏目幸恵(文化服装学院 ヘアメイク・化粧品科学研究室)
「モデルを使ったメイクの実演および受講者個別指導」
- 10 月 22 日(土) 2016 年度 第 2 回研究会 (首都大学東京 秋葉原サテライトキャンパスにて)
- 講演:
・山下敏男(元首都大学東京教授、元日産デザイナー、INTERROBANG DESIGN 株式会社代表取締役)
「デジタルリードデザインプロセスに関する研究」
・相野谷威雄(ヴィー・ディー・エス株式会社代表取締役、首都大学東京サービスロボットインキュベーション HUB・Managing Director)
「感性に関わる性能とデザインの関係」
＜首都大学東京 serBOTinQ と共催＞
- 2017 年
- 2 月 15 日(水) 特許に関する勉強会 (首都大学東京 南大沢キャンパスにて)
- 講演:
・市原 茂((株)メディア・アイ感性評価研究所、首都大学東京名誉教授)
「心理学者を対象とした特許に関する解説」
- 対象:部会員
- 3 月 14 日(火) 第 25 回システム大会 (早稲田大学 西早稲田キャンパスにて)
- 感性・官能評価セッション(Ⅰ)、(Ⅱ)において、若手研究者による発表講演を組織、支援した。

【詳細】

2016 年度 第 1 回研究会

日時： 2016 年 7 月 16 日(土) 14 時～16 時

場所： 文化学園大学(旧文化女子大学) 新都心キャンパス A181 教室(A 棟 18 階)

講演：

・見崎大悟（工学院大学工学部機械システム工学科・ヒューマンインターフェース研究室）

<http://er-web.sc.kogakuin.ac.jp/Profiles/8/0000785/profile.html>

<http://www.ns.kogakuin.ac.jp/~wwa1043/>

「スタンフォード大学におけるデザイン思考と人間中心設計の教育・研究について」

見崎大悟先生の略歴

1996年東京都立大学工学部精密機械工学科卒業。1998年同大学大学院工学研究科機械工学専攻博士前期課程修了、2003年博士後期課程修了。博士(工学)。電気通信大学電気通信学部助手、静岡理科大学理工学部講師を経て、現在、工学院大学工学部機械システム工学科准教授。2015年4月から2016年3月までスタンフォード大学客員准教授。研究分野は、知能機械学、機械システム設計工学、機械機能要素、トライポロジー知覚情報処理、知能ロボティクス教育工学など。



今回の研究会では、大手企業からの参加が多くあった。現在、商品に新たな魅力、価値をつけるための一つの方法として多くの異なる分野の社員を一つの部署にあつめて商品企画などをさせている企業が多いが、異分野の人材同士の有効な共同作業のノウハウについては、暗中模索の段階にある。このような背景にあつて、今回の企画は問題意識の高い方の参加が多く、活発な講師との質疑応答がなされた。議論のなかで、現場の職人さんも企画への参加の機会が増えていることも明らかになった。

公開講座「美人の特徴:人間工学に基づくお化粧法」

日時: 2016年8月3日(水) 14:30~

場所: 文化学園大学文化服装学院メイキャップ実習室 (B195 教室)

人間工学という科学の視点から化粧法を考えると同時に、実際的な化粧法について、実践を交えて解説した。

講義:

・梶谷哲也 (文化学園大学)

「美人の特徴-人間工学に基づくお化粧法-」

- ・脳の性(さが)、原始的な脳の支配から逃れられない感情
- ・お化粧法の盲点
- ・美人に仕上げるコツ

実習:

・夏目幸恵 (文化服装学院 ヘアメイク・化粧科学研究室)

「モデルを使ったメイクの実演および受講者個別指導」

- ・実際のお化粧法: モデルを使った実習
- ・普段の自分らしいメイク法(高齢女性の場合、若年女性の場合、男性の場合)

質疑応答及び個別相談: 梶谷、夏目



参加: 無料、事前申込必要 (先着 30 名は実習可能、聴講・見学のみも可能、高校生や非会員の制限なし)
できれば、筆記用具、タオル、化粧品によって肌荒れがある人は普段使っている化粧品を持参

2016 年度 第 2 回研究会

日時： 2016 年 10 月 22 日(土) 15:30～17:30

場所： 首都大学東京 秋葉原サテライトキャンパス 会議室 A,B

講演：

- ・山下敏男（元首都大学東京教授、元日産デザイナー、INTERROBANG DESIGN 株式会社代表取締役）
「デジタルリードデザインプロセスに関する研究」

山下敏男先生の略歴

1968年、日産自動車にデザイナーとして入社。様々なカーデザイン・プロジェクトに携わり、代表作品には、フェアレディZ Z32、シルビア240SX、スカイライン GT-R、インフィニティ G35など、車本来の魅力を伝える数々の車種がある。2008年、首都大学東京インダストリアルアートコース教授、研究分野は、トランスポーターションデザイン、デザインプロセスなど。2015年、『INTERROBANGDESIGN 株式会社』設立。デザイン及びデザインコンサルティングなど幅広く活躍中。



- ・相野谷威雄（ヴィー・ディー・エス株式会社代表取締役、首都大学東京サービスロボットインキュベーション HUB・Managing Director）

「感性に関わる性能とデザインの関係」

（講演要旨）

デザインとは意匠ではないといわれています。しかし、既存の設計プロセスでは、デザインが関与できる幅広い領域をデザインすることは難しいといえます。日産自動車フェアレディZのデザインを担当した山下敏男氏とともに、様々な領域を横断しながら設計した事例とともに、感性の何をデザインすべきなのかを議論します。

相野谷威雄先生の略歴

武蔵野美術大学大学院造形研究科修士課程修了。武蔵野美術大学、首都大学東京にてデザインに関する教育に従事し、ブランドマネジメントからグラフィックデザイン、空間設計まで横断的にデザイン活動を行う。日本デザイン学会員、日本VR学会員、日本感性工学会員、日本芸術工学会員、JIDA会員、東京都環境公社主催環境学習講座講師ほか。



2名の講師の講演内容をうけて、感性品質とは？、人間工学を含めてデザインする意味、どんな時にアイデアが発想されるか、に関する質疑応答など活発な検討がなされ、人間工学や感性的な視点から、モノにとどまらない“こと”づくりに関する議論を行うことができた。特に、共催の serBOTinQ 会員の方々には新しい視点からのご意見をいただくことができた。

<首都大学東京 serBOTinQ と共催>

特許に関する勉強会

日時： 2017年2月15日(水) 17:30~19:00

場所： 首都大学東京 南大沢キャンパス (1号館109室)

参加対象： 部会員限定

講演：

- ・市原 茂 ((株)メディア・アイ感性評価研究所、首都大学東京名誉教授)
「心理学者を対象とした特許に関する解説」

ディスカッション： 参加者全員

“特許”、“知財”などに興味がある部会員を対象に、心理学領域に焦点をあてて勉強会を実施した。

まず、心理学出身で現在ものづくりの最前線にいる講師から、知財の権利の確保、例えば“特許”を題材として、ご講演をいただき、次いで参加者全員でディスカッションを行なった。一見、工学としては当たり前と考えられがちであるが、研究計画上の権利化のタイミングや発表の仕方に甘さがあるケースも少なくないことが明らかになった。特に、日本での発明の新規性喪失の例外規定(特許法第30条)に関する諸問題や、現在のオリジナリティの取り扱い、国際学会やヨーロッパでの権利の考え方やアメリカの先願主義への変更などの説明は有益であった。

第 25 回システム大会

日時： 2017 年 3 月 14 日(火)

場所： 早稲田大学 西早稲田キャンパス

感性・官能評価セッション(Ⅰ)、(Ⅱ)において、若手研究者による発表講演を組織、支援した。

感性・官能評価セッション(Ⅰ)： 座長 石原正規（首都大学東京）

1 三好 美浩（岐阜大学医学部）

「若者に好まれるアルコール飲料の種類とその背景」

2 中野 俊（首都大学東京大学院）

「非意識性視覚情報に基づく選択反応 –実験デザインの差異の影響–」

3 村田 佳代子（首都大学東京大学院）

「皮膚感覚と前庭感覚から誘導される自己運動知覚-皮膚刺激強度の変化の影響-」

4 澤田 亮三（拓殖大学工学部デザイン学科）

「倦怠感レベル評価ツール」

5 伊藤 泉（東海大学工学部材料科学科）

「Sensitivity evaluation of the surface processing of metals」

6 木曾 温子（首都大学東京大学院）

「日本における IAPS の交差文化的検討」

感性・官能評価セッション(Ⅱ)： 座長 梶谷哲也（文化学園大学）

1 金田 謙治（豊田中央研究所）

「温冷感の個人差の予測技術に向けて」

2 鈴木 貴大（首都大学東京大学院）

「情動表情の呈示が直後の視覚感度に及ぼす影響」

3 堀内 健太郎（首都大学東京大学院）

「静止立位姿勢制御における周辺視オプティカルフローの役割」

4 佐藤 壮平（首都大学東京大学院）

「ハフ変換による瞳孔計測について」
